

第14回萩原朔太郎賞決まる

松本圭二さんの「アストロノート」に

「第十四回萩原朔太郎賞」は、松本圭二さんの「アストロノート」に決定。九月五日に行った選考委員会で、最終選考に残っていた六点の作品の中から選ばれ、同日記者発表を行いました。ここでは松本さんのプロフィール、喜びの言葉などを紹介します。なお、賞の贈呈式と記念講演などの催しは、十月二十八日(土)に前橋文学館で行います。問い合わせは文化政策課 ☎890-6522へ。



詩集「アストロノート」

最終選考の6作品から

「第十四回萩原朔太郎賞」の選考委員会を九月五日、市役所で行い、高木市長が結果を記者発表しました。選考委員会は昨年引き続き市民の皆様と身近な賞とするため、選考委員五人が本市に集まり受賞作品を選出。最終候補作品六点の中から、松本圭二さんの詩集『アストロノート』が栄えある朔太郎賞に決まりました。最終選考に残っていた候補者・作品名・出版社と選考委員は次のとおりです(敬称略)。

- 最終候補者と作品(五十音順)
 - 井川博年『幸福』(思潮社)、川口晴美『やわらかい檻』(書肆山田)、小長谷清実『わが友、泥ん人』(書肆山田)、高谷和幸『回転子』(思潮社)、辻井喬『驚がいて』(思潮社)、松本圭二『アストロノート』(「重力」編集会議)。
 - 5人の選考委員(五十音順)
 - 入沢康夫(詩人、仏文学者、



選考結果を記者発表

松本さんのプロフィール

昭和四十年、三重県四日市生まれ。三重海星高卒業、

早稲田大第一文学部中退。詩人。フィルム・アーキビスト(フィルム保存の専門家)。福岡市在住。平成十四年『重力01』(「重力」編集会議)およ

び平成十五年『重力02』(「重力」編集会議)に編集委員として参加。平成十五年『ボエムの虎』(海鳥社)を共同編集。また平成五年『男子高生のた

詩人と打ったら「どじょん」になる

真剣などじょんは

言語や形式について実験するように光についても様々な試みをする

そのためにかなりの時間を費やすのがふつうである私もまた他の優秀などじょんと同様

若いころは光の散乱している曇天を好んで書いた

そして、その光の描写をマスターしてから

こんどは明暗のコントラストの強い風景へと移っていった光の特定の面を集中して勉強することはどじょんにとつてきわめて有益なのだ

光を「見る」ということが学習できる

陰影や反射、光の種類や光源そのものが構図の中心となり

物体はどちらかと言えば副次的な要素となるだろう

どじょんはついに光の使い手となるのである

ジョージ・イーストマンが孤独な自殺を遂げたとき

私は卓上の白い紙を長い時間見つめていた

それは全世界だった

電燈が私の太陽だった

コニー・アイランドが雪にうまっっていく

コニー・アイランドが夜をとりもどしていく

めの文章図鑑(筑摩書房)に『ロング・リライフ』一編を収録。主な著作は平成四年詩集『ロング・リライフ』(七月堂)、平成七年『詩集』(七月堂)、平成八年『詩集未製本普及版』(アネ・フランセ文化センター)、平成十三年『詩篇アマータイム』(思潮社)、平成十三年『詩集工都』(七月堂)。

亡き母からもらった賞

今回の受賞を一番喜んでくれるのは、きっと母だと思えます。残念なことに、母は、この五月に白血病で逝ってしまいました。わたしは母のひつぎに、『アストロノート』を含む自分の四冊の詩集を入れて、一緒に火葬してもらいました。恥ずかしくて、生前の母には一冊も贈っていませんでした。ひよっとしたらこっそり買って読んでいたかもしれません。



受賞した松本圭二さん

が、分かりません。でもたぶん、今は天国で読んでいるのだろうと思います。それで、天国から、萩原朔太郎賞をくれたのだと思います。母が、褒めてくれたのだと思います。リビングでは、二人の子どもが、「百万円」とはしゃいでいます。妻は「ほっとした」と言いました。自分の四冊の詩集より、この四人家族の方がよっぽど大切に、誇らしく思っています。いいときにいい賞をいただきました。とてもうれしいです。

10月28日に記念講演など

贈呈式と記念講演を開催します。なお、駐車券は配布しません。日時=10月28日(土)午後1時30分 会場=前橋文学館 対象=一般、先着80人 内容=選考経過の説明や賞の贈呈、松本圭二さんの記念講演、マンドリンとギター二重奏など 申し込み=10月10日(火)~25日(水)に文化政策課 ☎890-6522へ